

事務事業名	桜町陣屋跡ふれあい保存と活用事業				担当	教育委員会 文化課 文化財係	
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-83-7731	
施策名	5	文化財の保護と継承			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成19年度～） <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
法令根拠	文化財保護法、真岡市文化財保護条例、真岡市補助金等交付規則						
予算科目	1.一般会計	10.教育費	4社会教育費	2文化財保護費			
事業概要	国指定文化財「桜町陣屋跡」の適切な保存と活用を図るため、「史跡桜町陣屋跡の保存と活用を考える会」を中心に、復元した報徳田20aにおいて江戸時代に近い米作りなどを行う史跡活用事業に対し予算の範囲内で補助金を交付する。 また、公募した参加者から1人当たり大人3000円・子供1000円を徴収し、事業費の一部に充てる。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 23年度実績 公募による参加者とともに田植えから稲刈りまでの米作りをメインに、サツマイモ栽培や桑山子作りなども行い、一連の行事を撮影した写真コンクールを新たに実施した。  24年度計画 前年度に同じ。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 補助金	千円	663	268	400	400	400
	イ 実施日数	日	5	5	5	5	5
	ウ 会議回数	回			10	10	10
	エ						
	オ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 国指定史跡「桜町陣屋跡」、市内外の参加者及びアマチュアカメラマン。	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 募集人員	人	100	100	100	100	100
	イ						
	ウ						
	エ						
	オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 国指定史跡を適切に保存管理するとともに、体験型の文化財活用事業を行うことで参加者が交流を深める。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 参加者数	人	105	76	72	85	100
	イ						
	ウ						
	エ						
	オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 文化財を保護継承するとともに二宮尊徳の業績を広め、市民の文化的向上に資する。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 歴史や文化財に関心を持つ市民の割合	%	69.8	74.5	70.1		72.0
	イ						
	ウ						
	エ						
	オ						

(2) 総事業費の推移		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円				
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	663	268	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	120	99	0	0
	一般財源	千円	751	272	400	400	
	事業費計(A)	千円	1,534	639	400	400	
	人件費	正規職員従事人数	人	4	3	3	3
		延べ業務時間	時間	380	280	220	260
		人件費計(B)	千円	1,588	1,136	939	1,103
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,122	1,775	1,339	1,503	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成18年度に史跡整備事業が完了し史跡の適切な保存管理と有効活用を図るため、平成19年度から栃木県がまち自慢事業による補助を受け、宇都宮大学と連携した有機無農薬による米作り事業を始めた。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	栃木県がまち自慢事業が平成21年度で完了したことに併せて宇都宮大学との連携も終了したことから、翌年度からは「史跡桜町陣屋跡の保存と活用を考える会」など市民を中心とした活用事業に切り替え、経費の一部について予算の範囲内で補助している。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	文化財の保存管理のみを目的とするのではなく、二宮尊徳の業績を理解する体験型の文化財活用事業は貴重であり、報徳関係者を中心に補助金の継続を望む声が多い。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 文化財の保護と活用は市の施策である。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 全国的に知名度の高い二宮尊徳に関する文化財を保存管理することは、地域の歴史と文化を理解するため有効である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 国指定史跡「桜陣屋跡」で、公募による市内外の参加者、アマチュアカメラマンが体験型の事業を通して交流を図ることで二宮尊徳の業績を広める。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 史跡の適切な保存と活用が図られている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 史跡保存管理に要する経費が増加するほか、二宮尊徳の業績を広め文化財を有効に活用する機会が減少する。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 他に類似の事業はない。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 史跡を適切に保存管理し有効に活用するための必要最小限の事業費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 史跡を適切に保存管理し有効に活用するため必要最小限の業務である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 公募による参加者から参加費を徴収し事業費の一部に充てている。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							